

1-40. コウシ胸腺 DNA の精製中における分子定数の変化 (15) 川出由己。コウシ胸腺 DNA の性質が抽出精製の諸操作で変化する (おそらく不可逆的に) ことを超遠心機による沈降測定と粘度測定で調べた。

1-41. イオン交換樹脂により核酸を分割に分ける試み (15) 三浦謹一郎, 鈴木堅之。数種のイオン交換樹脂に対する核酸の吸脱着状況を調べた。強塩基性陰イオン交換体 (Dowex-2) を用いて酵母のリボ核酸をいくつかの分割に分けた。

1-42. 牛肝臓からのペントース核酸 (PNA) の抽出・精製について (15) 北村とも子, 渡辺格。牛肝臓から Grinnan, Mosher 法及び他の二三の方法で PNA を抽出し, その若干の性質を調べた, その結果について述べる。

1-43. 仔牛胸腺ヒストンの精製とその不均一性について (15) 宇井信生。仔牛胸腺より種々の方法でヒストンを抽出精製し, この蛋白質が分子量, 電荷その他の点において異つた性質のものの混合物であることを確認した。

1-44. スクアラン・グリースの低温トルク試験 (12) 山口文之助, 大木喬。スクアランに増稠剤としてリチウム石鹼, アルミニウム石鹼, ベントン等を添加して製出した各種の耐寒性グリースについて低温トルク試験を行い, それらのグリースの耐寒最低温度を決定した。

1-45. グリースの離漿に関する動力学的研究 (15) 山口文之助, 大木喬。離漿現象は粘弾性体であるゲルのクリープに基因するという考えの下で, 各種グリースの離漿に関する実験結果の説明を与えた。

1-46. 金属石鹼粉末の含水量 (15) 神戸博太郎。真空吸引法及びカール・フィツシャー試薬による滴定法により金属石鹼粉末の水分を定量した結果を比較する。

1-47. 油性に対する圧力の影響に関する研究 (15) 永井雄三郎, 石田久枝, 若月転。振子式試験機で鋼-鋼組合せに対するバルチミン酸-スピンドル油の油性を種々の大気圧下で測つた。バルチミン酸の低濃度の場合, 大気圧低下と共に油性がよくなる。

13.00~15.30

高分子, 生物化学

1-48. 超遠心機スピッコ (映画) (10) 渡辺格, 川出由己。超遠心機のはたす役割とスピッコ E 型分析用超遠心機の機能の平易な紹介。

1-49. 高分子電解質溶液の偏光解消度測定 (15) 玉虫文一, 磯晃二郎, 白井道雄, 吉岡甲子郎。ポリアクリル酸について散乱光の偏光解消度を種々の濃度, イオン強度に於て測定し, その粒子状態との関係について考察した。

1-50. 核蛋白の表面化学的研究 (予報) (10) 玉虫文一, 今堀和友, 八若光子。従来核蛋白, 核酸及プロタミン類の表面化学的研究は余り行われていない, 著者は 2 mol NaCl 溶液上に之等の安定な膜を作る事に成功したので之等の膜の性質について若干の知見をのべる。

1-51. 鼠の尾のコラーゲンの分子の大きさと形について (10) 野田春彦。鼠の尾のコラーゲンを精製して大体均一な物質を得た。沈降定数, 粘度, 拡散定数の測定値から分子量は大体 700,000 と云う結果が出た。

1-52. 色素を利用した Retention Analysis (15) 石井信一, 瀬野信子。酸性色素 Poncean 6 RF を使つた Retention Analysis (保留分析) によつてクルペインなど塩基性蛋白質の簡易定量を行うことに成功した。

1-53. クルペインの向流分配の基礎的條件 (15) 沢田文夫, 石井信一, 安藤鋭郎。クルペインの均一性を向流分配的に検討するために, 望ましい分配系数を与える適当な溶媒系を探した。

1-54. プロタミン中のグアニジン基の状態 (15) 木村正己, 石井信一, 岩井浩一, 安藤鋭郎。クルペインの部分及び完全水解物の Hypobromite-N, Van Slyke-N を測定してプロタミンとそのペプチドのグアニジン基の状態を検討した。

1-55. プロタミンに対するカルボキシペプチダーゼの作用 (15) 飛田亨, 山崎誠, 安藤鋭郎。牛の膵臓から抽出した結晶カルボキシペプチダーゼをプロタミン類に働かせてその C-末端のアミノ酸の検索をした。